

パルマイラ（バージニア州の田舎）

大まかに言えば、人間はどこでも同じかもしれませんが、四国の田舎に一年暮らした私にとって、アメリカの田舎はそれとは大きく異なるものです。

私はバージニア州の州都リッチモンドで育ったのですが、母側の親戚は、バージニア州中西部にある田舎町、パルマイラというところに9世代続いて住んでいます。親戚の一人、Oさんを尋ねてきました。

私の“はとこ”にあたるOさんの家では、彼自身と奥さんおよび娘さん2人が住んでいて、その娘さんが9世代目にあたります。Oさんのお父さんが私のお爺さんの従兄にあたり、その二人はほぼ毎日一緒に遊んだりハンティングしたりしながらパルマイラで育ったのだそうです。

そうそう、黒ネコも家族の一員でした。Oさん宅を訪問した日のお昼すぎに玄関を出ると、猫がプレゼントとして、まだ生きているモグラを持ってきてくれました。Oさんによると、猫の食べ残しとしてネズミなどの内蔵が玄関に残っていることはよくあるけれど、生きている状態でマルのままの奉納品を持ってくるのは珍しいということでした。猫も歓迎の意を表してくれたようです。

今回パルマイラに立ち寄った理由は、Oさんが持っている土地で植物の種を蒔いたり木を植えたりするためでした。自分のお爺さんが苦勞して耕作した土地に、自分の手で植物を植えて咲かせる体験をしてみたいと思いました。とは言っても、その土地は今や単なる松林に過ぎず、遠くから猟銃の音が響き渡ってくる他に、人気は全くありません。ただし、小川の近くにはいくらかの広葉樹があるため、動物も住みやすい場所となっているよ



うです。

大いなる田舎であるパルマイラにはどんな動物が住んでいるのでしょうか。愛媛県の剣山のようにイノシシやタヌキ？いや、おりません。多いのは、シカとキツネ（赤狐）。最近見かけられているものとして、熊とコヨーテ。松林を一緒に散策したOさんの知人が「自然の専門家」で、糞の形と色で動物を見分ける智恵を授けてくれました。たとえば、普通の犬の糞とコヨーテの糞とがどのように違うのかについて、有益な勉強をしました。

2日続いてその素朴な林に入り、雨に打たれながら土だけでなく私も柔らかくなりました。数回は動物を見かけましたが、それより、「何か」が動いている気配、目の端で素早く走る「何か」を見た、という経験の方が多かったです。雨も音を立てるし、雨も動きを示しますし、気の所為（木の精？）にすぎなかったかもしれませんが。

その2日に挟まれた一夜は、集会所で夕食をとりました。その建物は約200年前前に造られたもので、中には1つの大きい部屋があるだけです。200年前も集会所として利用されていたのですが、長らく閉まっていて、5年

前にOさん達の力で生き返らせたのだそうです。

現在は、週に一度、村の老人たちが自ら料理を作って持ってくるポットラックパーティーが催されています。そこでは、週変わりでテーマを決め発表することになっています。私が参加したときには、200年前に集会所のために寄付した4つの会社に関して4人が調べて発表しました。

発表は堅苦しいものではなく、打ち解けた雰囲気です。皆それぞれにおしゃべりに耽る中で行われたのですが、そこからパルマイラの歴史が私にも伝わってきました。それぞれの発表の合間、そして発表の後には、他のメンバーもその会社について知っている噂や自らの経験を述べたりしました。たとえば、バス運転手の誰さんが銀行で働いている誰さんと逢瀬をした、村の中央通りに沿う川が雨で溢れてくると、商店街のビルが流れていってしまわないように一階の床板の一本を上げて、水が障害なしにビルの中に少し入れるようにした、等々。

しかし、その興味深い話も3時間続きますと、さすがの私も自らの脳ミソのキャパを知りました。一人の発表者はたぶん90歳を越えるくらいの年齢で、ろれつが回らない上に南部なまりの喋り方でしたので、話の半分以上聞き捨てるしかありませんでした。

過去に何度もOさんの家族に会ったことは



あるのですが、今回初めて悟ったのは、彼らは現在ではなく過去のために生きているということです。過去に住もうとしているかのようでした。自分の両親や親戚のしたこと・言ったことしか言わない、頭の中が昔のことでいっぱいな人たち。

彼らは、過去の話はずっとずっと喋り続けるのです。どれだけ情報をもたらしたのか分からないくらいの膨大な過去の話。「歴史」は時間が経つにつれ変わるものですし、100年前、200年前の話は今、確信をもってできる人はいないでしょうが、パルマイラに住んでいる人たちは、その「歴史」の伝承のために日々、過去の話をし続けているかのようです。それが伝承情報を小刻みに補強する活動となっているのです。伝承される歴史は誰の何のためになるのか…少なくとも、そこからの血を引く私には価値はあるのです。

筆者紹介

ネルソン・グラム

U.S. Attorney (Virginia Bar), Global IP Counselors, LLP 所属。

1981年米国バージニア州生まれ。ジョージ・ワシントン大学 (DC) で国際関係論を学びながら、ウルグアイ大使館でインターン。卒業後、2003年渡日、香川県三野町 (現在三豊市) の国際交流協会にて一年勤務。うどんが大好物となる。帰国後、ジョージ・メーソン大学ロースクール卒。2008年8月からGlobal IP Counselors, LLPに弁護士として勤務。趣味は読書、運動。好きな言葉は「鳴かぬ蜚が身を焦がす」。